

2 地域・保護者への啓発活動の取組み

事例1 パンフレット、のぼり、腕章等の作成

事業内容を説明するパンフレットの配布，事業が実施中であることを示すのぼり旗の設置，また体験学習中の生徒が身に付ける腕章など，各地域でさまざまな工夫を凝らしながら作成されています。

【甘日市市推進地域】



甘日市市内の事業所に配布した，パンフレット



体験中に，生徒全員が腕に付けた「腕章」

受入れ事業所に立てさせてもらった「のぼり旗」

事例2 多様なメディアを活用した情報発信

【呉市推進地域】（職場体験の実施前・後の各期における計画的・継続的な情報発信により、効果的な啓発活動に取り組んだ例）

【実施前】市政だより

（キャリア・スタート・ウィーク標語募集，受入事業所募集）



【実施後】呉市情報紹介番組「くれ・情報ステーション」テレビ放映
（平成19年9月8日（土）11:35～11:45 放送）



事例3 事業所を対象にした啓発

【府中町推進地域，海田町推進地域】(生徒のポスター作成と受け入れ事業所へ感謝状を送付した例)

生徒自身が「職場体験活動実施」を示すポスターを作成し、体験を行っている5日間職場に掲示してもらうことで、事業所で働いている職員の方や、お客さんに対して体験活動中であることを知らせる取組みが行われています。

また、教育委員会が受け入れ事業所に対して感謝状を贈り、事業所の職場体験に対する理解を促進する取組みも行われました。

体験活動中に事業所に掲示するポスター（府中町，海田町）



教育委員会から受け入れ事業所へ贈った「感謝状」(府中町)



【熊野町推進地域】（生徒が模擬ビデオ制作会社を設立し、地元企業を取材して3分間のビデオコマーシャルを作成した例）



制作したCMを発表会で発表するとともに、コンペティションを開き評価を行いました。地元企業のCMを制作・発表・評価することを通して、地域の産業についての理解を深め、情報収集・探索能力や職業理解能力、勤労観・職業観及び職業に関する知識や技能の育成を図ることができました。

事例4 広報誌を活用した地域への啓発

【大崎上島町推進地域】（町の広報誌「大崎上島6月号」へ掲載した職場体験学習の広報）

今年度から中学生の職場体験学習「キャリア・スタート・ウィーク」が始まります。

町内の中学校では、事業所の協力を得て2年生を対象に、平成11年ころから2日間の職場体験学習に取組んできました。さらに充実を図ろうと今年度は3日間に、今年度から「キャリア・スタート・ウィーク」として5日間の体験学習を実施することとなりました。

職場体験の目指すところ

1. 自己をみつめ、理想とする将来の自分像に向けて課題を明らかにし、進路選択に役立てる。
2. 働くことの楽しさや喜びなどを実感する。
3. 仕事内容や仕事への適正について理解を深める。
4. 地域の人たちとのふれあいを通じて、社会人としての常識・マナーを学ぶ。

今年のキャリア・スタート・ウィークは、8月27日(月)～8月31日(金)です。
 各校の2年生は、4月から自己をみつめる学習を始めています。今後は、体験先を決めるための学習（5月）、事業所との申込連絡（7月）など、準備をすすめています。終了後は、各校毎に個々の体験のまとめと発表を行います。（9月～11月）

対象生徒数 大崎：25名、東野：13名、木江：15名

実施場所
 町内の民間事業所、公共機関、医院、福祉施設等。今年度受け入れていただいた事業所を中心に、現在、約60の事業所から協力の承諾を得ています。このほかにもご協力いただける事業所がありましたらお知らせください。
 健康推進委員会 ☎64-2774（担当：吉岡・多保）

この体験学習を有意義なものとするために、家庭・地域社会・企業・関係機関のご理解とご協力をお願いします。

キャリア・スタート・ウィークって…?

- 開講の1日目
- 仕事を覚える2日目
- 慣れる3日目
- 考える4日目
- 感動の5日目

（※実施校の声）

写真：昨年度の職場体験学習

事例5 中山間地の事業所確保の工夫

中山間地域では事業所が少なくその確保が難しい側面があります。推進地域内の全中学校が統一し職場体験を実施するため、関係機関と組織的に連携し、職場体験学習の円滑な実施に取り組むことが大切です。

【**世羅町推進地域**】(より多くの受け入れ事業所を開拓し、ねらいに迫る職場体験学習にするため、関係団体と連携を広げた例)

地域で進めるみんなの職場体験	
「せらゆめトライアルウィーク」	
目次	
スケジュール表	・・・ 1
生徒への対応について	・・・ 2
緊急時対応マニュアル	・・・ 5
学校での指導事項	・・・ 7
《関係資料》	
【資料1】職場体験生徒決定通知	・・・ 11
【資料2】5日間の体験プログラム例	・・・ 12
【資料3】体験プログラム作成例	・・・ 別紙
【資料4】体験中の活動例	・・・ 13
【資料5】職場体験の基本的な考え方	・・・ 14
【資料6】職場体験の意義	・・・ 15
【資料7】「せらゆめトライアル・ウィーク」の趣旨	・・・ 17
【資料8】実施要項	・・・ 18
【資料9】推進体制 組織図	・・・ 19
【資料10】アンケート	・・・ 20
【資料11】賠償責任保険等について	・・・ 22
《別添付様式》	
・体験プログラム(5枚)	

事業所用 指導の手引き(目次)

せらゆめトライアル・ウィーク実行委員会

構成： 世羅町
世羅町教育委員会
世羅町商工会
世羅郡医師会
ハローワークせら
世羅郡PTA連合会
世羅町社会福祉協議会
世羅高原6次産業ネットワーク
世羅町内中学校

役割： 全体計画の決定
地域・町民への広報
職場体験等の円滑な実施に向けての受け入れ事業所の拡大及び確保
事業の分析と評価(成果及び課題の収集)

役職： 会長(町長)
副会長(教育長)
事務局(推進委員会事務局)

世羅高原6次産業ネットワークとは

世羅町内の第一次産業を核として、町内で生産される農林水産物等の資源を活用して消費者と交流を進めようとする生産者のネットワーク組織です。

【**安芸高田推進地域**】(市内にある産業活動支援センターのアドバイスを仰ぎ、

行政機関・学校が事業所確保の工夫を行った例)

協力事業所の開拓に向けたアドバイザーとの連携

安芸高田市に設立された産業活動支援センターのアドバイザーである植田さんから事業所開拓方法と職場体験学習での留意点などアドバイスをいただいた。

事業所の開拓方針

- ・ バリエティーに富んだツテをさがせ。
- ・ あえて「物作り」に注目せよ。

職場体験での留意点

- ・ その仕事はどう役に立つのかの全体像を生徒がつかめること。
- ・ ひとつのものの背景に隠れているものに生徒が気づけること。
- ・ 会社を起業した意味を生徒に聞かせること。

